

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

佐賀県 唐津市

【事業概要】

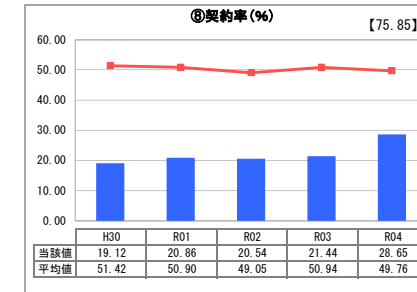
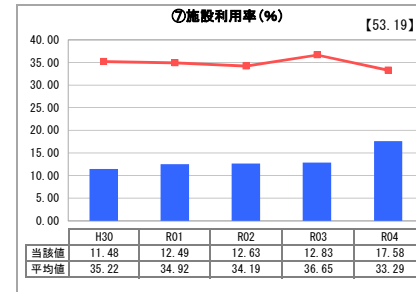
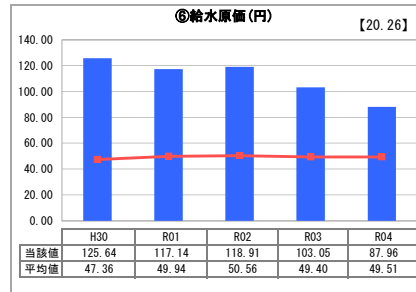
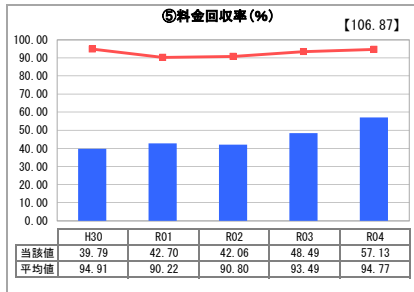
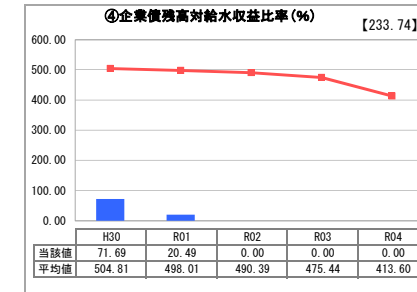
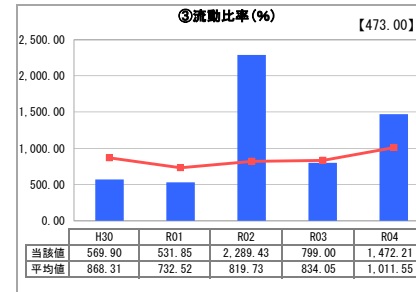
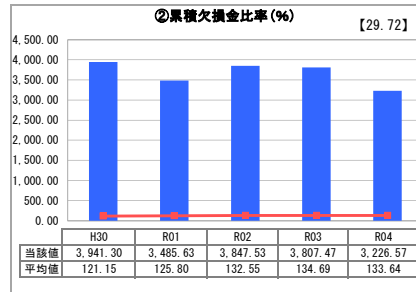
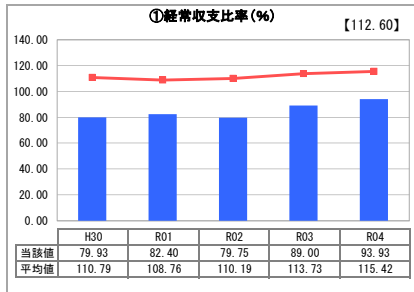
業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	9,300	極小規模	1	1,635
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.3	7	2,664	非設置	

グラフ凡例

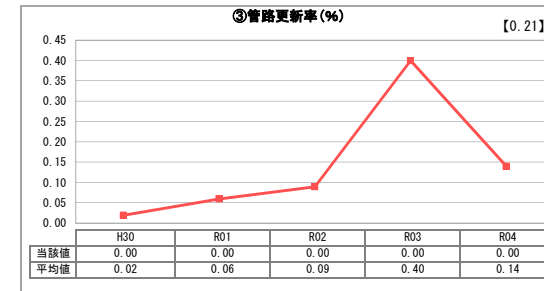
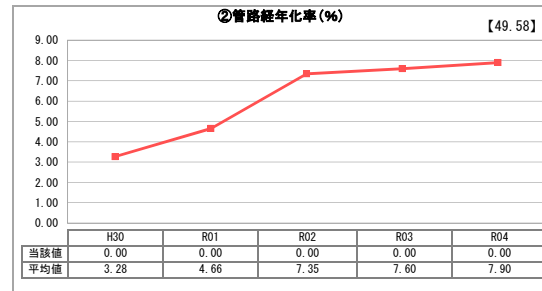
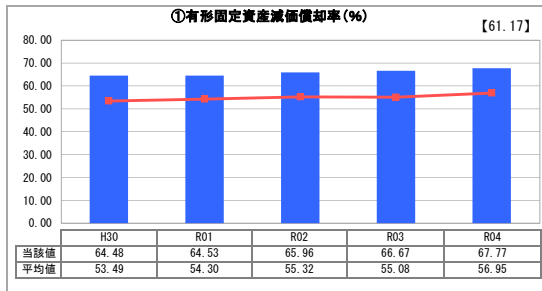
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を下回り、②累積欠損金比率については、ここ数年契約水量の増加に伴い減少傾向である。しかし、累積欠損金は年々増加し、依然として赤字経営が続いている状態である。

③ 流動比率は、償還金元金が年々減少していることにより増加傾向であったが、令和2年度に償還終了となり、今後は預金の増加が見込まれるため、短期的な資金運用に支障はない。

④ 企業債残高対給水収益比率は、令和2年度に償還金が終了したため、令和3年度以降は「0」となる。

⑤ 料金回収率は100%をかなり下回っており、給水に係る費用を給水収益だけでは賄えてはいない。

⑥ 給水原価は、工業用水施設の管理負担金の割合が高いため、平均値をかなり上回っている。

⑦ 施設利用率と⑧契約率については、給水区域が限定的であり、今以上に契約事業所の増加が見込まれない状況にある。令和4年度は契約件数が1件増加したことにより若干改善しているが、平均値を大きく下回っている。

以上により、累積欠損金は年々増加し、給水に係る費用も給水収益では賄えておらず、施設の老朽化に伴う設備更新など新たな投資も必要となるため、経費の節減や給水契約の増加に努めていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、一定の割合で上昇しており、②管路経年化率及び③管路更新率は、耐用年数を経過した管はなく、更新を行っていないが、布設より30年ほど経過しているため、今後は順次更新していく必要がある。

全体総括

平成5年に工業用水の給水を開始したが、給水区域には食品加工業者が多く、工業用水が適さず、契約率は低いままで、設備等の老朽化も進んでいる。設備等の更新を長期的に計画し行う予定だが、多大な負担となるため、今後の経営状況はますます厳しくなると見込まれる。県内での現行料金は、当市が最高であり、料金改定は予定していない。今後も、経費の節減、給水区域の新規需要の開拓や既契約企業への工業用水の用途等の再検討など契約水量の増加に努め、給水収益の増収を図る必要がある。